

フレールベル自傳

(第七回)

(マイニンゲン大公に宛てたる書翰)

四十八、兄の同情

兄の返書は届きました。私は喜びに慄へながらそれを手にしました、封を切る數時間前私はそれを方々持つて歩きました、それを讀む前數日の間私はそれを肌から放しませんでした。

私の心靈の欲求を満足させることに關して私を助け得やうと兄が思ふなどとはあり得べからざることのやうに思へました、而して私はその返書の中に私の生涯の努力の挫敗を發見することを恐れました。希望と疑惑との間に數日の間たゆたうた後私はもうそんなことをしてゐるに堪へられなくなりました、而して返書を展いてみました、それは突如として最も深き同情の言葉を以て私のため

に書き出されてありましたので私は尠からず驚かされました、讀み續けて行く内にその内容は深く私を感動させました。

それには私の親愛なる叔父の死が報じてありました。而して私と私の兄弟に遺された彼の遺産に就ても記してありました。斯く運命そのものはたとひ甚しく感激的なものであつても私に私の第一の計畫を成就させる資金を供給してくれました。

萬事はもう決してしまひました。この時から後私の内的生活には全く新しい意義と清新な品格とが加りました。而かも私はすべてこれらに就て無自覺でありました、私は花を咲かせて自分ではそれを知らないでゐる木のやうなものでありました

倉橋惣三譯

私の内的にして同時に外的なる天職と努力、私の眞の生の運命と私のはつきりした生の目的とはしかしながら尙分離の状態に在り鬭争の状態にありました、私はそれに就ては少しも知る所はなかつたのであります。

私の決心は建築を私の職業とすることに決めてゐました。私がすべての友から離れたのは單に未來の建築家としてのためでありました。

四十九、蝶の如くに

一八〇五年の四月の終頃、平和な心と愉快な情と熱心な意衷と力に充ちた心とを以て私は馴染みの土地を去りました。並々ならず美しい五月の最初の幾日を私は一人の友と共に休日としてその名にふさはしく過しました（私は前にも記したやうに私の内的な個人的な生活が相變らず外的の自然と手を取合つて親しくしてゐたといふことを思ひ起しました）、この友といふのは私の親しくしてゐた人でウツケルマルクの非常に手入れの届いてゐ

る農場で活計を立てゝゐました。

人工がその地の素様な自然の姿の美しさをば披目のない流行の中心に開發しました。この美しいひつそりとした寂しい場所に於て私は言はゞ蝶のやうに花から花へ飛び廻つてゐたのであります、私は常に色彩と露の眞珠との自然の盛飾を熱愛しました、而して少年の喜悅を以てしつかりと自然に縋りつきました。

此地で私は同情的氣分を以て眺め渡した景色といふものは増されたる光彩を以て輝くといふことを發見しました、私が當時この事を記して置いた文句によりますと「我等が自然に親近すればする程自然は美しさを以て輝き、すべて我等の愛に報いてくれる」のであります。これは私の心が私の魂を戦かした感情に表現を與へやうとした最初の試みであります。この文句は後年屢々私にその眞なることを證據立てました。

私の友は或日私にそのアルバムの中へ何か書い

てくれと私に請ひました、私は澁々彼の望に應じ

ました。何が借用文句を記すといふことは私の心に濟みません。何故ならばそれは私とその本の所有者との間に存する關係にそぐはぬ仕打でありますから。而かも何か獨創的な文句を考へ出すといふことは殆んど私の力には及びもつかぬことでありました。しかしながら室外で友の生活と私の生活とをあらゆる方面から比較して十分に考へた後私は次の句を用ゐることに決めました、

運命が速かに定住と愛妻とを郷に與へんことを！ 我には運命が絶え間なく我をさまよはしむる間に我と内奥の我及び世界との關係を残さなく認めしむべき時を許されんことを。

斯う書いて來ると私の思想は明瞭になつて來ました、而して私は尙書き續けました。

郷は世人に、パンを與ふ。

我が目的をして世人に、自我を與ふることたらしめよ。

五十、兄の激勵

私は當時自分で言つたり書いたりしたことの意味を十分に解することが出來ませんでした、又私の建築學の計畫にもしつかりした考を持つことが出來なかつたのは無論であります。

私は尙ほ未だ自分といふものを知りませんでした、私の眞の眞の生命を知りませんでした。私の目的も亦それに達すべき私の生の道路をも知りませんでした。而してそれからすつと後私がしばらく眞の天職に従事した後、私はこのアルバムに書いた句の豫言的性質を持つてゐたことに尠からず驚かされたのであります。

後年に至つて私は人間の精神といふものはそれが始めて心の内に動いて來た時はもつと年を取つて來るとその實現に到達する所のはるけき豫言を發するといふことを屢々認めました。

私は近頃になつて賢い活潑な子供に就てこのことを特に注意して居ります、實際子供達の蝶のや

うな生活に於て彼等に依つて現はされる深遠な真理に私は屢々驚かされたのであります。

私はこゝに象徴的な真理のひらめきを捉へ得たやうに思ひます、丁度人類の心靈が既にその蛹の繭から脱出し始めたやうに又は鶏卵の殻を破り出て來るやうに。

一八〇五年の五月、旅行の途次、私は長兄を訪ねました、この長兄のことに就ては今まで度々書きましたが今後もまた度々書くことゝ思ひます。

而して長兄は今までの住地と違つたところに住んでゐました。彼は其處へ牧師として雇はれて行つてゐたのであります。

長兄は以前に變らず深切で情愛が深くありました、而して私を叱るところか私の新計畫に對して特別な贊意を表して會談してくれました、長兄は彼を惹き附けてゐた計畫に就て話してくれました、而してこの計畫は今も尙長兄を惹き附けてゐるのです、けれども長兄はそのことに就て語るべ

き心の強さを缺いてゐたのです。父の訓誡と權威とは若い時分の長兄を威壓して居りました、而して今では生活の定職の鎖が彼をしつかりと捉へてゐるのでその計畫を實行することは出来ません。

内心の命する所に従つて踏み迷ふことなかれといふのが兄が私に提供してくれた忠言でありました、而して私が去るに臨んで私のアルバムに生涯の格言として次の句を記してくれました。

人間の仕事は目的に對つて奮闘することなり
親愛なる弟よ、堅忍不拔の精神を以て汝の職責を勇らしく果せ、汝の前路に當つて横はる困難と戦ひ汝の目的を貫徹せんことを期すべし

五十一、理想と職業

斯くて私は同情と贊同によつて勇氣附けられ決意を確固にして兄の家を去つて己の道を拓いて行きました。

私の行く道筋にはワルトブルグ城がありました、ルーテルの生涯と名聲とは當時は宗教改革三

百年記念祭を行つた今日のやうには十分に評價され又あまねく理解されてゐませんでした。

私の少年時代の教育はルーテルの生涯とその奮闘とを知悉せしむるやうにはなつてゐませんでした、私はそれに關する個々の事件を本當に知らなかつたのであります。しかも私のこの眞理の擁護者を評價することを知りました、それは私の學校生活の終る頃、基督教の古風な習慣に従つて特定された日曜日の午後の勤行には集りの人々にアウグスブルグ信條を聲高に讀んで聞かせることであります。私は「ルーテルの路」を攀ちて行きながらルーテルがまだなすべき事、根絶すべき事、建設すべき事の多くを遺して行つたことを思つて深い敬虔の念に充たされました。

夏至になる少し前、私は私の友と約束して置いた通りフランクフルトに到着しました。

のどかな春に幾週間となく旅の續けてゐる間に私の思想は溫和に傾いて行き纏められるやうにな

つてゐました。

私の友も亦約に背きませんでした、乃で私達是我的のために多幸なる未來を作るべく直ちに一緒に仕事に取り掛りました。

建築家の地位を求めるといふ計畫は尙しつかりと懷かれて居りました、而して事情もそれを實現するに都合よさうに見えました、けれども私の友は遂に私達がそれまでに現れたよりもつとしまつかりした何物かを見出すまでしばらくの間教へることによつて生活費を得たらばと私に勧めました。私の望んでゐることは何でも直き協ふやうに思はれました、それなのに私の心の中には或る氣重にさせる感情が漸々と頭を擡げて來ました、私はそこで直ちに嚴しく自分に尋ね始めました。

「こはそも何故なるぞ」建築術に於て汝は人間の一生に價するだけの仕事をなし能ふか」

「汝は建築術を以て修養に資せしめ人類を向上せしむることを得べきか」

私はこの自分自身の問ひに對して満足に答へました、しかも私は今や起つて來たこの理想に適ふやうにこの職業に従事してゆくのは難事であるといふことを私自身から隠蔽することは出来ませんでした。これにも係らずして尙忠實に私の當初の計畫に止つて居りました、而して私は直ちに私の新しい職業に對つて私を適せしむるためにさる建築家の下で研究し始めました。

五十二、初めて教師に

私の思惑を貫徹させやうと斷えず配慮してくれる私の友は私を彼の友なる當時フランクフルト模範學校の校長をしてゐたグリューネル氏に紹介してくれました。この學校といふのは長い間設立されないうたのであります。私は茲で常に他人をよくこび迎へて之を外らさぬ隔壁のない若い人々を見出しました。而して私達の會話は直きに生活及び生活の多種な狀態に就て自由に擴つてゆきました、私自身の生活及び生活の目的も亦話頭に上

つていろいろと話されました。私は當時の有の儘の私を現はして包まずに話しました、自分といふものに就て知つてゐること及び未だ知らぬことに就て話しました。

グリューネル氏は私の方に向き直つて言ひました。「あの、建築は斷念なさつたがいゝでせう、それは些とも貴君の天職ではありません、教師におなりなさい、私の學校で教師が一人要る所ですよろしいと仰言れば貴君は直ちに教師の地位に就かれます」

私の友はグリューネル氏の提議を承諾せよといふのでした、併し私は躊躇しました。搗て、加へて私の決意を急ぎ立てるやうな外的の事件が私に迫つて來ました、といふのは私は私の證明書の全部取別けそれと一緒に置いて置いたエナで貰つたものも紛失してしまつたといふ通知を受けたのであります、これらの證明書は私の仕事に強い興味を持つてゐた或る紳士の許に送られてあつたので

す。而して私は如何した事の間違ひでそれが失つてしまつたのだから分りませんでした。私はこの通知を読んで神様が私の後にあつて橋を壊してしまつて歸路を絶たれたのであるといふ意味に取りました、私は最早思ひ煩ひませんでした、私に差し出された手を心からよろこんで捉へました。而して直ちにフランクフルト・オン・ゼ・メーン（メーン河畔のフランクフルトといふ意）の模範學校の教師となりました。

この頃の教育界の注意の焦點はペスタロッチの名でありました、ペスタロッチは又私の處世にも注目すべき人であるといふとは間もなく明かになつて來ました、何故ならばグリユーネル氏のみならず同校の教頭もペスタロッチの弟子でありました、而してグリユーネル氏はペスタロッチの教授法に就て著書をしてゐる位でした。

五十三、ペスタロッチの名

ペスタロッチの名は不思議に私を惹き附けまし

た、私の自己發達及び自己教養の間に彼の名が希望と思はれるやうになり——恐らく親密に知ることは出來まいがしかも十分明かでは何は兎もあれ激勵を與へるものと見えるやうになつてからは尙更私を惹き附けました、而して今や私が少年時代に父の家に於て尠くとも私の記憶に残つてゐるからにはさうであつたらうと思ふのですが新聞か何かで或る記事を読んだ時のことを思ひ出しました。

私は瑞西に世の中から退いて生活してゐた四十歳になる人——名はペスタロッチと言つて——が唯一人誰の援助も請はずに初等學を修養したといふことを讀みました、丁度その頃私は自分の發達の遅く且つ不十分なことに氣が附いて居りました、而してこの記事は私を鎮めました、私も亦努力すれば自分の教育の不足を補ふことが出來るといふ希望と確信とを以て私を充たしました。年を取るに従つて私は又力ある雄偉の人々は大抵晩學であるといふことに知つて慰められました、總じて

眞に人たる人々の實際の存在の思考が丁度膏腴な

雨と陽光の心地よい滋味との如くに常に私の精神の上に働いてゐたといふことは私の生活と私の品性の進化との下に横つてゐる土臺の一部分であると認めなければなりません。是等の人々の生活は純粹の眞理を含んで居ります、是等の生活をして來た人々が種々考へた末語録か何かの形式で現した所の主義は私には貴い穀種のやうに若しくは私の渴へてゐる精神に取つては溶解し易い鹽の結晶のやうに思はれてゐたのであります。而して私がこの事に就て記してゐる内に私は私の學校時代の終頃に於て懸命は奮闘的な人々の生活し聖典の記事によつて私の上になされた印象が特に如何に深く且つ永續的なものであつたかといふことに思ひ至らぬ譯にはゆきません、私はこゝにはこれだけを記すに止めて置きます、併し私は又後にこの事に就てもう一度後戻りをして記さなければなりません。

五十四、ペスタロッツチ訪問

扨て私が新に始めたところの新生活に筆を返しませう。ペスタロッツチに關する消息は悉くすべて力強く私を捉へました、而してこのことは文學的な新聞に掲載された彼の生活、彼の目的及び彼の奮闘に關する簡單な記述に於て殊にさうでありました。この新聞には又ペスタロッツチの有名な理想と努力——即ち何處でも關はず世界の至る所に彼の意見一つで貧民教育の學校を建てるといふことでありました、この記述殊にその最後の點は私の心には火の上に注がれた油のやうなものでありました。乃でその時から斯ることを考へ斯る事をなさんとしてゐる人のところへ行つて面會し更らにその人の生活とその仕事とを見極めやうといふ快心が起りました。

三日の後に（それは一八〇五年の八月の終頃であります）私は既にイベルドンへの途上にありました、イベルドンはペスタロッツチが近頃名を賣

出した所です。一度其處に到着しますとグリューネル氏とその同僚との紹介狀を持つて行つたのでペスタロッチ及び彼の下に働いてゐる教師達から深厚な歓迎を受けました、私は他の訪問者の如く教室に案内されました、而して其處で私は自分の思ひに耽つてゐたのです。

私は敎授法の理論及び實情に掛けては尙甚だ無經驗でありました、斯る事柄に關しては主として自分自身の學校時代の記憶に頼つて居りました、乃で私は敎授法の細い事と斯る事柄が全體の組織に何ういふ風に關係してゐるかといふやうな嚴しい經驗には適して居りませんでした。眞實この後の問題に就ては明かに考へてみた事ありませんし又實際に施してみた事ありません、私の見た事は私に取つては直ちに向上であり又沈滞であり勇往であり又當惑でありました。

私の訪問は一週間續いただけでありました、私は活動しました而して出來るだけ多くを取入れや

うと試みました、特に私の從事して居る職務に於て私を助けるために全體の組織に關する私の意見及びそれが私に爲した影響を記して忠實は記録を作るべく促されたからであります。

この考へを以てすべて私の聞いた事をしつかりと記憶に留めて置かうと試みました、それにも係らず若しも私がペスタロッチの許に長く止まつてゐたならば——勿論その事を非常に希望してゐたものではあります——私は間も無く智と情とが私のような性癖を持つた人間に於ては等しく悲むやうになるであらうと感じました。

當時に於ける其地の景況は特に活潑でありました、內的に又外的にそれは生氣ある動的は忙しい存在でありました、何故ならば埧地利政府の命を受けてハルデンベルヒ公子がペスタロッチの事業を大小となく檢視に來てゐたからであります。

五十五、ワンデルンデ、クラッセン

私が僅の間ペスタロッチの許に止まつて受けた

利益は次の通りであります。

第一に私は明快な確定された教授案によつて行はるゝ大なる教育機關の全的訓練を見ました。私も亦その頃ベスタロッチの學校の教授案を使用して居りました。この教授案はいくらも偏執的な嫌ひはありますが私の意見では非常に優れてゐる點があると思ひます。

優れてゐると思つたのはワンデルンデ、クラッセンの仕組であります。各科毎に教授は何時も一緒に完全な設備を以て行はれました。故に教授科目は各級に定められてゐたのでありましたが生徒は彼等の勉強してゐる科目に就て熟達の程度に従つて種々の級に分配されて居りました、それ故に生徒の全體は各科毎に更らに截然たる區劃に區分されてゐるのでした。

この仕組の利益はそれ以來私が私の教育事業に於てそれを決して撤回することなく又今でも撤回しやうとすることは出来ない位に否むべからざる

底に力強く私を刺戟しました。私の直覺的に反對して居りました教授案の偏執的の方面は私自身の同案に對する傾向がまだ朦朧として決つてゐませんでしたがその不完全で片手落であることは認めてゐました、圓滿無缺の發達に必要な教育の數科ははるか後方に据ゑられて繼子扱ひにされ表面だけで取扱はれてゐるやうに私には見えませんでした。